

公表	事業所における自己評価総括表
----	----------------

○事業所名	バンビの家			
○保護者評価実施期間	令和6年11月18日 ～ 令和7年3月7日			
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	61	(回答者数)	39
○従業者評価実施期間	令和6年12月1日 ～ 令和6年12月31日			
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	7	(回答者数)	7
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年3月7日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	利用児 1 名に対して職員 1 名を配置している。	1 対 1 で対応することで保護者に安心感を提供している。 細かい成長に気づき保護者と共有している。 療育中の様子について保護者が記入する書式があり担当と意見交換ができるようになっている。	保護者との情報共有について電子ツールなどの活用を検討する。
2	医療機関の中に位置し、医療や心理、リハビリ部門との連携やケガ等の緊急時に対応できる。	施設の在籍状況など、主治医と情報共有を図るようにしている。 主治医を通して、心理やリハビリ担当と連携を図るようにしている。	より医療との連携が図れるよう連携システムの検討を行う。
3	療育の時間内に保護者と面談する時間を設定している。	個別支援計画作成時は担当と児童発達支援責任者が連携して作成している。療育に保護者に参加していただき、様子観察と意見交換の時間を設定し、ご家族の要望が反映されやすいようにしている。	よりご家族の意向を療育に反映するシステムについて検討する。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	利用児 1 名に対して職員 1 名を配置（従業者の人員が厚い）しており人件費支出が大きい。	人員配置について適正な試算がなされていない。	収入の予測に応じた適正な人員配置とサービスの質の在り方について検討する。
2	療育場面が狭く、屋外での活動等は提供できていない。トイレや手洗いスペースが他の部門と共有されており「健康・生活」領域の取り組みに制約がある。	単独の事業所となっていないため共有部分の占める割合が多い。	場所の移転など単独事業所について検討する。
3	郊外の医療機関の中に位置しており地域での活動や外部との連携ができていない。	地域とのつながりの視点が弱く、また、郊外にあるため人の集まる機会が少ない。 個人情報の取扱い等で難しい面がある。 第三者評価などが義務化されておらず外部の検証の発想が乏しい。	屋外での活動の推進やネットを活用した療育の様子の発信等を行う方法を検討する。